

函館ソーシャルクリニック

② 函館に暮らす外国人住民から多文化共生を考える

北海道教育大学函館校

講師 尹 鈺喜

1. プロジェクトの概要

函館は、海外から多くの観光客が訪れるだけではなく、様々な国や地域の外国籍の人々が1千人以上居住するダイバーシティな街に成長している。それゆえ、函館でも日本人と外国人が「共に暮らす」地域社会のあり方を考えることが重要な課題となっている。学生たちは、多様化する国際人口移動の状況と日本社会のあり様について様々な方面から学ぶが、授業では外国人を特殊なトピックの中で扱うことが多く、外国人を自分と共に生活する地域社会の一員として考える機会は相対的に少ない。

そこで、本プロジェクトでは、学生たちが函館で暮らしている外国籍の住民たちにインタビューを行うことで、地域社会における多文化共生をより身近なものとして考える機会を設けた。そして、彼ら彼女らの人生のリアリティを追体験する中で生まれた問題設定を学問的な学びに繋げることを目的とした。最終的には、インタビュー内容と学問的な学びをあわせて、成果報告書としてまとめた。具体的な活動内容は下記の通りである。

2. 主な活動内容

1) 文献調査及びインタビュー調査の実施

学生たちは、日本における外国人の現状を把握するために、移民、留学、就職、結婚の観点から文献調査を行い、外国人が多く暮らしている地域社会の多文化共生の取り組みと函館の状況を比較しながら議論した。その際、韓国・北朝鮮にルーツを持つ外国籍の人に焦点を当てることで、国際移動・移民の特徴が浮き彫りになるよう工夫した。イ

ンタビューの調査手法を学んだ学生たちは、自ら函館で暮らしている外国人住民及び彼ら彼女らと関わりを持つ日本人を見つけて調査依頼を行い、インタビュー調査を行った。インタビュー対象者は、韓国料理店を経営している者（オールドカメラ・ニューカメラ）、本校に交換留学に来た元留学生（現在、韓国に帰国）、大学で教員として働いている者、韓国語講師、翻訳家など様々である。学生たちは、彼ら彼女らがどのような経緯で函館に辿り着き、現在は何のような仕事をしているか、函館で暮らしている住民として何を感じているかなど、その個々人の人生を明らかにした。

2) 成果報告書の作成

学生たちは、インタビュー内容を全て文字起こし、繰り返し読みながら彼ら彼女らのライフヒストリーを再構成した。その際、インタビューを行った当事者とやり取りしながら、追加調査の実施や、相互認識の相違を修正する作業を行った。そして、彼ら彼女らのライフヒストリーを再構成する中で、当事者の生の声から浮き彫りになった日本社会の現状について再び調べ、インタビュー内容と学びの内容の二つを合わせた形で成果報告書を作成した。成果報告書は、大学教員や学生のみならず、一般の住民たちにも読んでもらえるようにデザインを工夫して作成した。そして、日本人・外国人のみならず、多様な背景を持つ人々が地域社会で心地良く暮らしてほしいという願いを本報告書のタイトルである「Life with you」という言葉に込めた。インタビューを受けた当事者たちからは、自身の人生を学生たちが丁寧に整理してくれたことに対する感謝の言葉をいただいた。

3. おわりに

本プロジェクトは、函館で暮らす外国人住民を直接に訪ねて、彼ら彼女らの人生の背景を伺うことで多文化共生社会の可能性について考える企

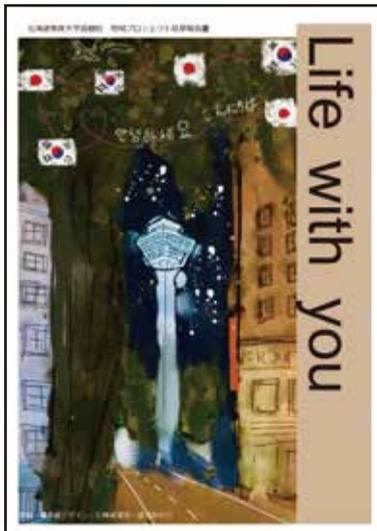
画であった。今後も函館が世界に開かれた街になるためにできることを、学生と共に考えていきたい。



インタビュー内容について発表する様子



成果報告書のデザインについて議論する様子



成果報告書の表紙



「インタビュー」のページ



「学びの窓」のページ